

地域委員会（仮称）の報告

1. 地域委員会（仮称）

（1）設立趣旨

石西礁湖周辺に地元の人達が、石西礁湖のサンゴを自然再生していくことに対して、自分たちに何ができるか、どう関わっていけるか等について話しあって、共有認識や連携感をつくり、実際の行動に繋がる体制・ネットワークづくりを図るもの。

（2）代表及び事務局

代表：吉田稔氏（八重山サンゴ礁保全協議会）、事務局：石垣自然保護官事務所。

（3）開催頻度

月1回（第3水曜日）に定期的会合をできるだけもつ。

2. これまでの活動

平成21年7月30日、8月19日、9月16日、11月18日、12月19日（計5回）

3. 主な話のテーマ

（1）「八重山のサンゴ礁を蘇らせる十行動」

地元住民各々がどのようなことを行えばよいかを具体的に示した「十つの行動」を作ろうとしている。これに掲げられた行動を参考にして、各々の立場や生活の中で少しでもサンゴ保全再生にとって良い方向に世の中が向かうことを期待するもの。

現在、十つでは多いという意見もあり、まずは一つに絞るか否か検討している。

（2）サンゴ基金への仕掛け

恒常的な基金額を確保する仕掛けを検討している。

海面利用が頻繁であって財政的に比較的裕福であろうと考えられるダイバーをターゲットにして、ホンの気持ち程度の協力金的な募金が得られるような仕掛けはできないものかというコメントがあったものの、募金はいくらでも善意で「徴収する」という姿勢は趣旨を違えているとの感覚もあるとのこと。ダイバーをターゲットにしたものだけにこだわらず他の仕掛けも検討していくことも必要。

（3）農家へのアプローチ

農家（特に高齢者）にサンゴ保全再生に係る陸域対策をアプローチする場合、もともとサンゴは保全する価値があるものという感覚をもっておらず、当該者の理解はなかなか深められないという意見があった。農家が本当に大切にしているモノ（価値）にサンゴ保全が素直に浸透していけるようなアプローチを検討していく。

4. 今後の展開

これまでと同様にできる限り定期的開催していくものの、テーマを少し絞って地元の実際の行動に繋げる「一歩」を作ることを図っていく。

八重山のサンゴ礁を蘇らせるための「十の行動」

- 一、 毎月、さしみ屋で一キログラムのおさしみを買うこと（↑適量か？）
- 二、 調味料に黒糖をつかうこと（↑具体的なレシピの方が良いのでは？）
- 三、 毎年、十本の樹を植えること（↑植樹できる場所は？）
- 四、 海に行く度、袋一つ分のゴミを拾うこと（↑回収したゴミをどうやって処分するか？）
- 五、 毎年、魚介類の放流すること（↑不特定多数が関われるものにするには？）
- 六、 外出する際は、自分のコップや箸を持ち歩くこと（↑何が障害となり得るか？）
- 七、 ダイビングする際は、オクトパスをホルダーで固定すること（フィンキック、アンカリングのダメージ防止策の方がよいか？）
- 八、 毎年一度は、家族でグラスボートに乗ること
- 九、 毎年一度は、サンゴの保全活動に参加すること（↑もっと具体的なものは？）
- 十、 天然素材の洗剤を使用すること。バイオ燃料への転化。啓発用の図書展示をおこなう。

平成二十一年〇〇月〇〇日
石西礁湖自然再生協議会